

## 4 果 樹

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 温州みかんの収穫、出荷</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○温州みかんの収穫、出荷</li> <li>○かんきつ類の秋肥施用</li> <li>○かきの収穫</li> <li>○キウイフルーツの収穫</li> </ul> <p>1か月予報では、寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は平年並か高い見込みである（高松地方气象台10月20日発表）。</p> <p>今月は温州みかん、かき、キウイフルーツなどの収穫が最盛期となる。樹上選果など収穫直前まで果実の均質化を図るとともに適期収穫、厳選出荷に心がける。</p> <p>ア 適期収穫          収穫にあたっては、着色や糖度、クエン酸をチェックし、各地区の採取、出荷基準に応じた適期収穫を行う。生育のバラツキが大きい園地では、品質・着色基準に達した果実から採取し、早採りは避ける(写真1)。</p> <p>収穫作業では、ハサミ傷を付けないように丁寧に扱い、腐敗果の原因とならないよう注意する。また、カメムシや鳥獣による被害果の混入にも気を付ける。</p> <p>イ 分割採取による浮皮果の軽減          果実品質を揃えるため、成熟の早い外成り果を先に採るなど、分割採取に努める。また、近年の温暖化により増加している浮皮果は、特に「南柑20号」や普通温州で発生しやすいため、樹冠外周部の8分以上に着色した果実は早目に収穫する。</p> <p>浮皮は秋季の高温と多雨で助長されるため、浮皮果の発生が懸念される気象条件が予想される場合は、11月中旬頃から、早生温州よりも先に「南柑20号」を採取する。</p> <p>ウ 予措による品質維持          普通温州は、着色や減酸の促進、浮皮と腐敗防止のため、収穫後に果皮を少し乾燥させる予措を行う。収穫果実を7～10日程</p>



写真1 収穫期の温州みかん

項 目	作 業 内 容																																																									
<p>(2) かんきつ類の秋肥施用</p>	<p>度、風通しの良い所に置き、果皮がしなびて少し柔らかくなり、弾力を持つ程度（減量率2～3%）減量させる。</p> <p>エ 庭先選別の徹底と腐敗防止対策</p> <p>傷果やヤガ類、カメムシ被害果の発生が多い地域は、選別時にそれらが混入しないよう注意する。樹上での農薬散布を徹底し、腐敗果の発生を防ぐことが重要である。</p> <p>着果によって消耗した栄養分を補給する秋肥は、樹勢回復や耐寒性向上、翌春の開花結実促進のために欠かせない肥料である。12月になると地温が下がり始め、次第に根の活性が低下して肥料の吸収が鈍くなることから、11月上旬を目処に施用する。多少遅れても、翌春には地上部へ十分量移行し、基肥としての効果はあるため、必ず施用する（下表）。温州みかんのマルチ栽培園では、収穫後にシートを除去して秋肥を施用するとともに、液肥を葉面散布するなど、樹勢回復を図る。</p> <p>表 かんきつ類の秋肥施用基準</p> <table border="1" data-bbox="451 1070 1390 1603"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品 種 名</th> <th rowspan="2">目標収量 (t/10 a)</th> <th rowspan="2">施 肥 時 期</th> <th colspan="3">施肥成分量 (kg/10 a)</th> </tr> <tr> <th>チッ素</th> <th>リン酸</th> <th>カリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>極早生温州</td> <td>4</td> <td>11月上旬</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>早生温州(マルチ)</td> <td>4</td> <td>収穫直後</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>普通温州(マルチ栽培含む)・はれひめ</td> <td>4</td> <td>11月上旬</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>早生伊予柑</td> <td>4</td> <td>11月上旬</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>不知火</td> <td>3</td> <td>11月上旬</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ぼんかん</td> <td>3</td> <td>11月上旬</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>清見・せとか・甘平</td> <td>3.5</td> <td>11月上旬</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>愛媛果試第28号</td> <td>4</td> <td>11月上旬</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) かきの収穫</p> <p>11～12月にかけて、「富有」や「横野」、「愛宕」などが収穫期を迎える。果皮色と果実品質には相関があるため、着色基準に達した果実から数回に分けて採取する。秋の夕方は果皮が実際以上に紅く見えることに留意する。また、雨や露で果実が濡れていると、汚損果の発生が多くなるので、乾いた状態で丁寧に採取する。濡れた状態で収穫した場合は、風通しの良い場所で乾かしてから出荷する。</p>	品 種 名	目標収量 (t/10 a)	施 肥 時 期	施肥成分量 (kg/10 a)			チッ素	リン酸	カリ	極早生温州	4	11月上旬	5	3	3	早生温州(マルチ)	4	収穫直後	11	7	8	普通温州(マルチ栽培含む)・はれひめ	4	11月上旬	10	6	7	早生伊予柑	4	11月上旬	7	5	5	不知火	3	11月上旬	8	6	6	ぼんかん	3	11月上旬	7	5	6	清見・せとか・甘平	3.5	11月上旬	8	6	7	愛媛果試第28号	4	11月上旬	8	5	6
品 種 名	目標収量 (t/10 a)				施 肥 時 期	施肥成分量 (kg/10 a)																																																				
		チッ素	リン酸	カリ																																																						
極早生温州	4	11月上旬	5	3	3																																																					
早生温州(マルチ)	4	収穫直後	11	7	8																																																					
普通温州(マルチ栽培含む)・はれひめ	4	11月上旬	10	6	7																																																					
早生伊予柑	4	11月上旬	7	5	5																																																					
不知火	3	11月上旬	8	6	6																																																					
ぼんかん	3	11月上旬	7	5	6																																																					
清見・せとか・甘平	3.5	11月上旬	8	6	7																																																					
愛媛果試第28号	4	11月上旬	8	5	6																																																					

項 目	作 業 内 容
<p>(4) キウイフルーツの収穫</p>	<p>県内では 11 月中旬頃にかけて収穫最盛期となる(写真 2)。追熟後の品質をほぼ一定に保つため、糖度 6.5～7.0 度程度の果実を収穫する。</p> <p>3～4 か月の長期貯蔵を行う場合、傷果や衝撃を受けた果実が混入していると、それらからエチレンが発生し、健全な果実の貯蔵性が低下するため、収穫は丁寧に行う。また、台風や強風による擦れ果にも注意する。濡れている果実を収穫すると日持ち性が低下するため、乾いた状態での採収を心がける。</p> <p>果実軟腐病や灰色かび病の発生は貯蔵性を著しく損なうため、収穫前には貯蔵病害の防除を必ず実施する。</p> <p>果実から出るエチレンは、貯蔵中に周囲の健全果を軟化させるため、エチレン吸着剤を必ず封入する。</p> <div data-bbox="890 297 1390 669" data-label="Image"> </div> <p>写真 2 収穫期のキウイフルーツ</p>

(作成：果樹研究センター)